

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校評価書

堺市立日置荘小学校
校長 稲葉 淳郎

中学校区におけるめざす子ども像
自らの課題に気づき、学び続ける子

令和6年度 重点目標
特別支援教育の観点を核とした生徒指導・教科指導・学校行事の充実

「確かな学び」の現状
令和5年度の全国学力学習状況調査では、算数・国語とも堺市・全国平均を上回るなど、これまでの成果がみられる。しかし、学びへの興味・関心については高いとは言えず、自ら進んで学ぶことや、学んだ結果として生まれる社会的参画力に課題があると考えられる。

「豊かな心・健やかな体」の現状
本校児童は体力・筋力は全国平均を上回るが、瞬発力や柔軟性に課題が見られる。また、運動が好きだと感じている児童の割合は全国平均を下回るが、一週間あたりの運動量は多い。このことから、運動はしているが、自ら進んで楽しいと感じて運動している児童は限られていると言える。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 ●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～11月)	達成状況 (年度末)		
								自己評価	学校関係者評価	
確かな学び	学力の向上 授業改善	特別支援教育の観点をふまえた授業づくりをもとに、児童用タブレット端末を活用しながら、自分の学びと学級の学びが充実するような授業を実践する。その結果として、子どもたちのふりかえりが充実するようにする。	○児童用タブレットの効果的な活用学習での活用法を研究し、研修等を実施ながら効果的に実践をめざす。	・タブレットの活用内容と新しい使い方の開発 ・タブレット使用法の交流回数	学級、学年での交流とチェック	11月と2月	B	A	A	効果的に使用していると思う。タブレットの使用で視力の低下や文字を書く機会が少なくなっていることに配慮も必要。
			○子ども自ら学ぶ機会の設定 自主学習や総合的な学習などの中で子ども自身が、学ぶ内容や順番を決め、学び方や表現方法を選択できる機会を設定することで、主体的に学ぶ子どもの育成をめざす。	・交流方法の研究と実施頻度	校内研修を中心とした交流とチェック	適宜	B	A	A	子どもたちは自分でコントロールできる部分と大人がコントロールしてあげないといけない部分がある。学習にもうま取り入れてほしい。
			●★楽しいと思える授業づくり ふりかえりが充実するような授業づくり。子どもたちがふりかえりたくなる、ふりかえりたくなる授業づくり。	・ふりかえりの内容 ・ふりかえりの記述量	ふりかえりの量と内容の変容	11月と2月	B	A	A	不登校の原因がはっきりとわからないことが年々増えている。普段の学習から、自分の成長を実感し、肯定的な感情を育ててほしい。
豊かな心 健やかな体	自尊感情の育成	子どものよさを引き出す学習を構成し、自己肯定感を育成するとともに、他者理解を行い、いじめのない信頼される人間関係づくりを構築する。	○挨拶指導の徹底 教師から積極的に児童に挨拶していくことを意識させる。 挨拶の大切さを挨拶運動やクラスでも指導をしていく。	・あいさつの大切さについての指導の取組の充実 ・児童会等による新しい発想の取組とその回数	委員会活動の実施状況 学級での実態調査 アンケート	11月と2月	B	B	B	近所の公園でもきちんとあいさつをしてくれる児童が多い。
			●居心地の良い集団作り 誰一人として阻害されることのない芯のすわった集団作りを行う。その方法として子どもが自己存在感を感じられるような集団作りをめざす。	・いじめアンケートの実施により、継続的な支援を行う。 ・協働的な学びの一要素として集団作りも位置づけて積極的に推進する。	いじめアンケートによる点検と交流 協働的な集団作りの実施回数	いじめアンケートともに毎学期実施 (年3回)	B	B	B	近所の公園やのびのびで、同じ学年だけでなく、伊学年とも仲良く遊ぶ姿がみられる。縦と横のつながりが感じられる。
	体力向上	身体を動かすことが好きになるとともに、これからの時代を生き抜く体力を養う。	○生涯にわたる心身の健康・増進のため身体を動かすことが好きになる取組の推進 体育の授業を中心とした体力づくりをより積極的に取り組む。	・なわとび、サーキット、運動領域別トレーニングの継続的实施	がんばりカード、振り返りカード 学校アンケート	11月と2月	B	B	B	公園で遊んでいる姿も見られるが、こども会で運動している子も減っているように思う。他のスポーツをしている子も増えている。
教育環境整備	学習環境づくり	一人ひとりが自らを伸ばすことができるよう、落ち着いた教育環境を確保する。	○清掃指導の徹底 清掃指導の充実と徹底をねらいとして、掃除と昼休みの時間を変更した。掃除のやり方を指導した上で、静謐な学習環境につながる基盤をつくる。	・役割分担等の明確度と徹底度 ・清掃について、子どものふりかえりで充実度の分析	子どもの振り返り 委員会活動	11月と2月	B	B	B	地域の自主防災訓練、クリーンウォーキングなどに自主的に参加して、町を安全に美しくしたいという意欲を感じる。
			人権教育の推進	自尊感情の醸成 他者理解と	さまざまな人権の取り組みをもとに人権教育を推進する。	●自尊感情の醸成につながる人権教育の推進 障害や特性を持つ子どもだけでなく、一人ひとりの自尊感情を育てる教育を継続して取り組む。	・実施教材数や確保した実施時間数 ・子どもの感想などによる変容	学校全体や各学年での振り返り	毎学期の計画と検証 及び 11月と2月	B

校長より (年度末) 昨年度と比べて確かな学びの項目には手ごたえを感じるが増えている。また、挨拶指導の徹底により、学校全体で挨拶に取り組んでいたところ、地域でもその成果を感じていただけていたことは良かったと思う。また、学年関係なく仲良く遊んでいることもお伝えいただいた。このような情報は普段学校には教えていただかないことなので、非常にありがたく感じられた。今後とも、総合的な学力の育成に取組み、地域や社会で活躍できる子どもを育てていきたいです。

学校関係者評価者から (年度末) 先生たちも地域とのつながりを大切にしつつ、やりたい教育活動をやりつくしてほしい。